20220731

絵本学会 NEWS
No.73

発行：絵本学会
発行日：2022年7月31日
編集：絵本学会広報委員会
絵本学会事務局：〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋1-1-1　パレスサイドビル
（株）毎日学術フォーラム内
電話：03-6267-4550
Mail : maf-ehongakkai@mynavi.jp
HP：http://www.ehongakkai.com

絵本学会

・第25回絵本学会大会開催報告
・第25回絵本学会定期総会議事録
・研究委員会からのお知らせ
・日本絵本研究賞運営委員会からのお知らせ
・『絵本学』第25号投稿募集案内
・『絵本学』に掲載された研究論文等の機関リポジトリへの登録について
・新入会員自己紹介
・絵本学会理事会議事録

■第25回　絵本学会大会（6月11日・12日）開催報告■

第25回絵本学会大会は、6月11日（土）、12日（日）の2日間、大会テーマ「共生の時代と絵本のゆくえ」を掲げ、小田原短期大学を拠点としてオンラインで開催された。参加者数は、会員（準会員含む）135名、一般54名、学生22名の合計211名であった。

大会1日目は、開会式の後、スージー・リー氏による基調講演が行われた。 *See you Someday soon* をはじめとした独創的な作品の魅力や工夫について、アニメーションや音楽を使いながら丁寧にご紹介いただいた。最後には、「Someday soon. このように物語は終わります。この大変な時は必ず終わりを告げ、私たちは必ず会えるでしょう」と、大会テーマにも通じる夢を語っていただき、200名を超える視聴者に大きな感銘を与えた。また、この日の研究発表はAとB、2グループに分かれ、発表者は計6名。それぞれ83名、94名が参加し、チャット機能を使った質疑応答も行われた。

大会2日目は、研究発表がCとD、2グループに分かれ、発表者は計5名、参加者はそれぞれ121名、55名だった。作品発表は、発表者3名、参加者147名だった。いずれもチャットで発表者と参加者との活発なやり取りがあった。また絵本学会25周年記念企画として、「葉祥明・絵本が育む心の世界」がオンデマンドで配信された。葉氏が自ら「北鎌倉・葉祥明美術館」を案内し、展示作品にまつわるエピソードなどを披露。最後には作品の朗読までしてくださるという贅沢な内容だった。視聴者は157名だった。大会を締めくくったのは、長谷川義史氏とあおきひろえ氏ご夫妻による夫婦トークである。ご自身のスタジオ、「空色画房」からのライブ発信。大会テーマを念頭に置いてお二人の作品の中から7冊を選んで、さまざまなエピソードを交えながらご紹介くださった。非常に楽しいトークではあったが、そのユーモアの裏に深い解釈をすることができるというのがお二人の作品の特徴である。視聴者は170名だった。

以上、今大会はオンライン開催という制約があったものの、逆にその特徴を生かして、参加しやすく、理解しやすい内容とすることができたのではないかと感じている。ご参加者の皆様と大会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

（文責：馬見塚昭久）

第25回絵本学会大会実行委員会（敬称略）
赤羽尚美（小田原短期大学）
小倉直子（小田原短期大学）
松本由美（玉川大学）
宮崎詞美（横浜美術大学）
山本美希（筑波大学）
尹 惠貞（一橋大学大学院博士研究員）
馬見塚昭久（小田原短期大学）

基調講演

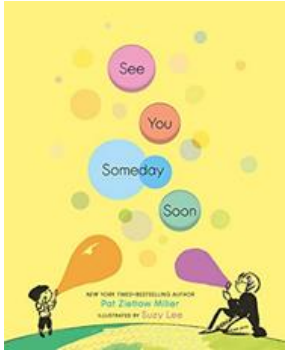
「See You Someday Soon　～アンデルセン賞受賞によせて、絵を通して息づく物語」
スージー・リー（絵＋本作家）

オンデマンドビデオによる基調講演「See You Someday Soon ～アンデルセン賞受賞によせて、絵を通して息づく物語」では、韓国で初の国際アンデルセン賞画家賞を受賞したスージー・リーさんが、本という形式をいかに生かすかについて、試みてきたさまざまなアイディアや表現技法を語ってくださいました。*See You Someday Soon*では、お互いに恋しく思い、会いたいと願う祖母と孫の気持ちを、紙に穴をあけるdie cutによって、「描く」のではなく「見せる」ことに成功しています。スージー・リーさんの『不思議の国のアリス』は、住んでいた家の暖炉を見立てて描いた劇場から、とめどもないアリスの夢の中の夢物語が展開していきます。この絵本の双子を鏡像のように表現するアイディアが『ミラー』で生かされ、『なみ』『かげ』と合わせた「境界三部作」となって、子どもたちの現実と想像の世界が交差し、混ざり合う様子を表現しています。

まるで子どものように次々とアイディアを試してみたくなるスージー・リーさんは、『水になる夢』で流れる水の連続性や変化を屏風形式の絵本で表現したり、空間を流れる音楽を読む絵、聴く絵として表現したりすることにも挑戦しています。本講演では、ヴィバルディの協奏曲第二番「夏」を聴きながら見えるイメージを視覚化したSUMMER（『夏がくる』ボローニャ・ラガッツィ賞フィクション部門優秀賞受賞）を音楽と映像で楽しませて頂きました。

子どもたちに「生まれてきて本当に良かったね」とエールを送りたい思いを創作活動のエネルギーとしているスージー・リーさんから、「共生の時代と絵本のゆくえ」という本研究大会テーマによせて、冒頭でご紹介下さった*See You Someday Soon*の結末のように、コロナ禍やさまざまな困難によって分断されたこの時代は終わり、「私たちは必ず会えるでしょう」という希望のメッセージを頂戴しました。同じ時代を共に生きる私たちが、絵本を通して生きる喜びを分かち合えることを願っています。

（文責：赤羽尚美）



研究発表・作品発表

A　座長：長野麻子、水島尚喜

◇『ボルネオ生物多様性に関する保育学生作成教材』
三好伸子（金沢星稜大学）

学生が制作した環境保護教育の絵本等の教材開発に関わる事例研究。発表者がボルネオ滞在経験を生かして作成した絵本を起点に、学生が製作した18作品の分類を行った。その内訳は、（ア）子どもたちと一緒に考えていこうとする姿勢の表現「疑問形投げかけ型」、（イ）ボルネオの生物多様性などの紹介「紹介型」、（ウ）課題解決内容を提案する「具体的提案型」等の主に３パターンである。

絵本等の言語教材作成が、学生自らの言葉でこどもたちに伝える経験として、貴重であることを指摘した。

◇『共創から生まれた見えない子どもたち、聞こえない子どもたちの絵本』
攪上久子（女子美術大学）

所属大学のヒーリング表現領域・アートプロデュース表現領域の演習授業として、2017年以来行ってきたバリアフリー絵本制作に関わる実践研究発表。インクルーシブな共生社会に貢献するアートやデザインを探求する視点から、他組織のプロジェクトパートナーと連携を取り、バリアフリー絵本制作をめぐる問題点を指摘している。

特に、「受け手（子ども）」、「作り手（美大学生）」、「渡し手（コラボレーションパートナー）」が、それぞれの役割を「つなぎ手」によってそれぞれの専門分野を発揮し合う「共創」概念の提示は、貴重。

◇『コロナ禍における創作絵本を通した表現方法の考察
－３場面に込められた日常生活を読み解く－』
金子亜弥（埼玉東萌短期大学）

コロナウイルス感染状況を考慮した遠隔授業についての内容に関わる分析。『だるまさんが』（ブロンズ新社、2008）を基に、１年次生では読み聞かせ、２年次生では表現授業として取り組んだ。３場面による創作絵本作りでは、「だるまさんは○○」として、だるまさんの関係性的状況を示すことを課題とした。

以上の学生作品を、①色形　②見立て　③感情　④行動、を視点として分析を行った結果、コロナ禍における日常生活の反映、作品のもつ生命感の重要性等が浮き彫りとなった。

（文責：水島尚喜）

B　座長：鈴木穂波、山本美希

いずれの研究発表も、絵本・絵雑誌について、丹念な文献調査に基づきその歴史的位置づけを探る有意義なものであった。

①「わが国の児童絵本・絵雑誌観―その誕生時に向けられたおとな達の眼差しと評価―」
永田桂子（元京都女子大学大学院非常勤講師）
明治期の文献調査を通して、当時の児童絵本・絵雑誌がどのように評価されていたかを読み解く発表であった。その結果として、絵に対する要望が多く見られ、児童絵本に対して絵の表現や色彩において厳しい目を向ける傾向があったことが示された。さらに、明治期には「趣味教育」として、美的観念を養成する美術鑑賞教育の教材としての側面を強く求めていたことを指摘し、児童絵本・絵雑誌観の一側面を明らかにした。
会場からは、海外の絵本からの影響についての質問があり、同時期の海外作品との比較という視点が加わることによるさらなる研究の深まりを期待する声もあがった。

②「『ひかりのくに』編集長・豊田次雄の仕事にみる月刊保育絵本の歴史的位置づけ」
井岡瑞日（大阪総合体育大学）
月間保育絵本『ひかりのくに』と保育理論・実践の専門誌である『保育』の両方で編集長をつとめた豊田次男の仕事に注目し、絵本・絵雑誌が保育の現場で活用される教育モデル形成への過程を調査した研究である。戦前には新聞記者および幼稚園経営者として幼児教育に関わった豊田の経験が、保育者層へ直接的に絵本・絵雑誌を届ける直販モデルの形成に結びつき、幼児への文化的資本として絵本・絵雑誌が受容される素地を作り上げたと論じた。
会場からは、『ひかりのくに』の再評価の必要性について賛同する声も聞かれた。

③「1950年代から1980年代における現代アーティストによる絵本の仕事」
児玉茜（国立国際美術館研究補佐員、金城学院大学非常勤講師）
1950~80年代に発表された現代美術作家たちの手による絵本の仕事を網羅的に探索した発表であった。彼らの作品が福音館書店、物語テープ出版、ラボ教育センターの３つの特定の出版社に集中していることから、出版社ごとに作品を比較し、現代美術作家たちによる絵本制作の特徴と傾向を明らかにした。
発表で紹介された現代美術作家たちによる絵本のリストは、今後の様々な視点からの研究の手がかりとして活用できるとの意見が会場から出された。

（文責：鈴木穂波、山本美希）

C　座長：藤本朝巳、生田美秋

1　絵本シリーズ「ぐりとぐらの絵本」に関する一考察
―内容構成から考える魅力―
髙原佳江（甲南女子大学）
2　ショーン・タンの物語絵本における欠如の表現とその意味
今田由香（日本女子大学）
3　クリスティアン・ブリュエル初期作品における「幻想」
伊藤敬佑（白百合女子大学非常勤講師）

①シリーズの魅力を、（1）言葉がリズミカル（2）絵がシンプル（3）主人公二匹が仲よし（4）多様な動物が登場（5）野外が主な舞台（6）遊ぶ（7）一緒に食べるの７点に要約し、論拠を例示して考察した。シリーズ全体を分析の対象とした点、言葉の詳細な分析が注目された。絵本表現の分析、物語の展開分析、受容論についても論及を期待したい。会員からは、一冊目の『ぐりとぐら』とシリーズの他の作品との差異についての指摘があった。

②５冊の代表作を対象に、各作品のキャラクターとストーリーの面から「欠如の表現」が彼の絵本にもたらす様相を詳細に分析した。「欠如の表現」の理論的枠組みをマンガ学、民話の語りの様式、芸術における鑑賞者の役割の観点から検証、独創的で刺激に満ちた問題提起であった。「欠如　lack」か「喪失　lose」あるいは「失われたもの　the lost thing」かの言葉の問題、ポストモダンの思想の影響など、さらに検討を期待したい。

③フランスの作家ブリュエルのデビュー作で、代表作でもある「シュリー」を対象に、彼は現実の問題をフィクションである絵本で子どもにどう伝えようとしたのかの論点を中心に、ブリュエルのその後の特徴の変遷にも言及した。『絵本の力学』の「模倣的再現と非模倣的再現」の分析を参考に、ことばと絵における視点、ことばと絵の相互作用の点から読解し、「シェリー」の男の子の影は「驚異」ではなく、「幻想」の性質が強い表現だとした。

（文責：生田美秋、藤本朝巳）

D　座長：赤羽尚美、佐々木由美子

D会場では、以下の2本の研究発表が行われた。

1「大人を対象にした絵本の読み語りを実施した場合の影響
—絵本セラピーの実践から」
中藤由佳美（山口県立大学大学院生）

2「林明子の絵本制作過程の研究～『こんとあき』ダミー本
前半4作品の変遷から見る」
関純奈（愛知工業大学附属図書館）

①中藤氏の発表は20代～90代の大人に向けて、計13回の絵本セラピーを実施し、セラピー後の参加者の変化を明らかにしたものである。セラピーを受けた全員が絵本に対するイメージが一変し、世界が広がったことを示したと報告された。ただ絵本セラピー自体、「大人が絵本を読むと深いメッセージを受け取ることがある」と、身近な大人に絵本を読み始めたところから始まっており、すでに確立されたプログラムや手法がある。セラピー後の結果も予想できる範囲であったと思われる。今後、研究として深めていくうえでは、中藤氏自身の独自な視点や分析が望まれるところである。

②関氏の発表は、『こんとあき』のダミー本8冊のうち、前半の4冊を分析対象として、その変化を追い、林が書きたかったストーリーやモチーフ、作品のテーマの変化などを明らかにした。初期のダミー本にも、こんがお弁当を買いに行く場面や尻尾を扉に挟まれる場面など、現行の『こんとあき』に表現されている場面がみられる一方、初期のダミー本では、あきの成長ではなく、こんの成長が描かれていた点など、興味深い点が明示された。今後、後半の4作品の分析をおこない、テーマがいつ、どのように変わっていったのか、編集者の役割等も含めて明らかにしていきたいとのこと。

いずれの研究も、今後の展開や発展が楽しみである。

（文責：佐々木由美子）

作品発表　座長：宮崎詞美、正木賢一

①『いいこ　いいこ　おやすみ』三好伸子（金沢星稜大学）

保育園に赴いた教育実習生が、午睡の場面を通じて様々な思いを抱えた子どもたちの背景を知り成長する姿を描いた作品。

イラストレーションは保育の現場の同僚の方が制作。「保育者」と「子ども」と「実習生」の関係性や、細やかな表情とことばの変化を捉えた表現には、臨床教育学を専門とし、保育者を育てる作者ならではのきびしさとあたたかみのある視点が垣間見えた。

全編を通じひらがなで文章が描かれた絵本だが「むしろ子どものみではなく、教育・研究活動をこのように絵本の形に描き残すことによって、次世代の保育者を励まし育む可能性がある」「学生と読みあった時の様子もまた発表して欲しい」という感想が寄せられた。

②『きみに　ありがとう』曾子安（京都芸術大学　大学院生）

「安野光雅の絵本にみる想像の余地の表現性に関する研究および制作」を研究テーマとした作品。安野光雅の『空想工房』にある「座標感覚」に反応し、エーリッヒ・フロムの『愛すること』から人間の最初の座標感覚は母と合一の状態から得たものであると考察し、さらに「ありがとう」ということばの中に他者との合一の擬似体験を求めた。コロナ禍の孤独の中で観察した、身の回りにある風景や事物一つ一つに感謝し描くことで自らの存在を確かめていく。

絵本画面における、書体を含む控えめなことばの美しさ、画材と水、紙の性質に委ねて描いた表現にも注目が集った。描写における輪郭の意味、点の並列構造やモンタージュによって現れる無関係な関係性の追究という今後の研究テーマも発表された。

③『マッチ売りの少女』別府浩実（貞静学園短期大学）

絵本作家として複数の発表作品がある作者が、同題のアンデルセン童話を原作とし、紙の絵本とデジタルアニメーションを両方制作することによってそれぞれの特性を探った研究成果の作品。

手描きイラストレーションによるアニメーションは、コマ録りと同様に膨大な数の場面を用意しなくてはならないが、今回デジタルイラストレーションにおけるレイヤー構造を用いて原画を下層に配置し、モチーフを動かす手法により大きく原画を変更することなくアンデルセンの世界の表現へ手応えを得られたとのことだった。

字幕や音楽の入った映像による多層的な鑑賞方法を可能にしたアニメーション表現に、多くの参加者が絵本との親和性を感じ取り、これからの絵本表現の開拓に新たな期待を集めた。

2年続けて絵本そのものを触ってめくって読むことがままならないZoom上での作品発表となったが、発表者の様々な視点と工夫、チャットを用いた参加者とのさかんなコミュニケーションや特設サイト感想フォームへの書き込みによって、絵本の本質と可能性を追究し考察しあう「制作を通じた表現研究」としての「作品発表」が行われ、今後に一石を投じた。

（文責：宮崎詞美）

絵本学会25周年記念企画

「葉祥明・絵本が育む心の世界」

葉 祥明（絵本作家）

25周年記念企画は、大会テーマ「共生の時代と絵本のゆくえ」をふまえ、子どものための絵本のみならず、社会的なテーマ、宇宙や精神世界をテーマとした作品も数多くある絵本作家、葉祥明氏に美術館の紹介とインタビューを依頼し、オンデマンド動画という形で配信された。

ご本人による美術館の紹介とその後のインタビューにおいては、洋館・部屋そのもののコンセプトもさることながら、館内の多様な作品、幼年期のエピソードや製作にまつわるエピソード、絵と言葉、そして絵本へのあふれる思いなど、貴重なお話を聞かせていただいた。

葉祥明氏は1946年戦後生まれ、幼少期に「絵本」のようなしゃれたものはなかったので、初めてディズニーアニメを見た時の衝撃はすごかったとのこと。創作絵本との出会いは、谷内こうた氏の「なつのあさ」（1970年）で、そこから「絵本」の創作に取り組み始める。

絵本作りで大切にしていることは、対象は子どもだということ。そのための、「優しい色彩」、「ソフトなタッチ」、「シンプルなお話」を絵本製作時のルールとしているとのことであった。

独特の、広々とした風景の中にポツンと小さな主人公がいて、そこから世界の冒険がはじまる、というスタイル（「風景画ではない、背景画なのだ」とおっしゃっておられたが）のそもそもの原体験としては、故郷、阿蘇の雄大な風景がある。1953年（昭和28年）の熊本大水害で浸水した実家を片付け、腰を痛めた父親が、療養のため阿蘇でゴルフをはじめたのだが、そのゴルフ場が気に入ったのか、映画「サウンドオブミュージック」のワンシーンのように、７人兄弟をぞろぞろ引き連れて歩いていたのだとのことである。

学生からの「保育・教育にとって大切なことは？」との質問に対しては、「子どもたち一人一人の気持ちを大切に。教え導くことに心血を注ぐよりも、この世界がいかに美しく、楽しく、面白いかということを一緒に味わってほしい」との回答を頂いた。

社会的なテーマを扱うようになったのは、チェルノブイリの原発事故のあとで、それから「命」や、現実を超えた世界である「死」、人生とは、世界とは、と人類の問いに考えを巡らせるようになったことがきっかけである。子どもには言葉が難しいと言われるが、「惑星・地球」に生きているんだよ、という視点を子どもたちにも持ってもらいたいと思っている。

混迷する世界情勢の中、絵本に何ができるか、という問いに対しては、絵本で解決に導くことは難しくても、「希望」があることや心がホッとする時間があることは大切で、絵本というものは、24時間誰でも使える街中の公園、ニュートラルな場、聖域であってほしいと思っている。ひどい現実世界、せめて子どもたちの心の中に聖域をつくり、それを守りたい、とのお話だった。

氏の中にいる、阿蘇に立つ少年、大人、賢者としての老人、様々な声を聞かせていただいたような、貴重な時間であった。

（文責：小倉直子）

ラウンドテーブル

「夫婦（めおと）トーク ほほほ絵本」

話題提供：長谷川義史＋あおきひろえ

コーディネーター：尹惠貞（一橋大学）、赤羽尚美（小田原短期大学）

長谷川義史+あおきひろえご夫妻のアートギャラリー「空色画房」とZoomによる生ライブのトークが始まった。「空色画房」にはノリのいいお客さんがいらしていたのも印象的だった。

それぞれ3作品ずつ『うみでなんでやねん』、『あおびょうたん』、『ここにいる』（あおき）、『たこやきのたこさぶろう』、『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』、『いいからいいから』（長谷川）を読み語り、最後に共作である『シバ犬のチャイ』はウクレレと「シバ犬の～チャイ♪」と軽快の歌で披露された。

大会のテーマである「共生の時代と絵本のゆくえ」を中心に、絵本作りにおいて作家自身が考えていた以上のものが、読み手の思いや気持ちを通じて、大きな感動や意味が付与され、またそれが読み継がれているところに、絵本の大きな力があることを強調された。

以下では、大会感想フォームに寄せられた参加者の声を紹介したい。

○『ここにいる』で、“この人生を全うしたことにおめでとう”、という言葉が大変しみいりました。家族を亡くしたとき、その生き様を間近で見ていた側としては、まさに、そう言ってあげたくなったことを思い出しました。
○私は学生としてまだ絵本の読み聞かせが上手ではなく、子どもたちがどうしたら楽しく絵本を聞くことが出来るのか、夢中になれる読み方はどんななのか悩んでいました。今日先生方の絵本を読んでいるのを見て絵本の読み方ひとつでこんなに面白くなったり、夢中になったりすることが出来るのだな、絵本はすごいなと改めて感じました。
○今後は、引き続き他者との接触をある程度回避する必要がある生活が、子どもたちの発達にどのような影響があるのか。逆に、子どもたちが、こうした生活を受けて伸びるスキルを用いて、前の世代の人間には予想もしないような活躍を果たすのか、そこに絵本がどのような立ち位置で介在するのか、新たに検討・観察が必要なものであるのか等と考え、お話を伺っていました。

多くの楽しさと少しのしんみりの中に、絵本のさらなる多様性と可能性を感じられたひと時であった。

（文責：尹惠貞）

第25回絵本学会定期総会議事録

オンライン総会

（本人出席67名・委任状出席58名）

1. 開会の辞

2. 議長・書記の選出
議長に丸尾美保理事、鈴木穂波理事、書記に長野麻子理事が選出された。

3. 会長挨拶
藤本朝巳会長より挨拶があった。

4. 2021年度活動報告
佐々木事務局長より資料に基づき、2021年度の活動報告がなされた。

5. 2021年度決算・会計監査報告
佐々木事務局長より資料に基づき、2021年度の決算と会計監査結果が報告され、承認された。研究紀要印刷製本費に関しては、『絵本学』第24号の支払いが2022年5月となったため、2022年度決算報告書に決算額が記載されるとの説明がなされた。

6. 2022年度活動計画について
佐々木事務局長より資料に基づき、2022年度の活動計画案が報告され、承認された。その他の活動計画として、研究倫理規程の策定について説明がなされた。

7. 2022年度予算案について
佐々木事務局長より資料に基づき、2022年度の予算案が報告され、承認された。

8. 機関リポジトリ登録に関する件
藤本会長より資料に基づき、『絵本学』に掲載された論文等の機関リポジトリ登録に際しての条件と絵本学会への申請手続きの方法を定めることが報告され、承認された。登録に際しては、『絵本学』の掲載号の発行日より1年を経ていることや出典の明記、著作権処理を徹底すること等が条件として定められた。

9. その他の項目について
藤本会長より甲木善久機関誌編集委員長の体調不良のため、『絵本BOOKEND 2022』の編集が遅延していることが報告された。また甲木委員長の休養に伴い、藤本会長が機関誌編集委員長を代行し、10月または11月に『絵本BOOKEND 2022』を刊行する予定であることが報告された。

10. 質疑応答

なし。

11. 閉会の辞

藤本会長より第26回絵本学会大会が、2023年6月17（土）～18日（日）に大阪大谷大学で開催予定であることが告知された。大会実行委員長は鈴木穂波理事が務め、同大学富田林市のキャンパスで対面開催に向けて準備が進められている。

最後に藤本会長より今大会実行委員長の馬見塚昭久理事と実行委員への感謝が述べられ、閉会した。

（イラストレーション：太田僚子）

絵本学会2021年度活動報告

◎第23回・第24回合同絵本学会大会の開催

2021年5月30日(日)刈谷市総合文化センター（愛知県刈谷市）
オンライン開催
テーマ：東日本大震災から10年、
コロナ禍での絵本表現を見つめる

◎企画委員会の活動

・絵本フォーラム2021　「コロナと絵本」の開催
2022年2月2日（水）～2月16日（水）オンライン開催
いりやまさとし氏・山縣彩氏

◎紀要編集委員会の活動

・絵本学会研究紀要『絵本学』第24号の編集・刊行
・2021年度絵本研究参考文献目録（2021年1月～12月発行分）の作成
・2021年度絵本原画展・絵本画家展リスト（2021年1月～12月開催分）の作成

◎機関誌編集委員会の活動

・機関誌『絵本BOOKEND 2021』の刊行、
『絵本BOOKEND　2022』の編集
・バックナンバーの販売促進

◎研究委員会の活動

・2021年度絵本研究会の開催
『絵本画家 赤羽末吉 スーホの草原にかける虹』を語る
2021年12月18日（土）
講師：赤羽茂乃氏
・絵本研究助成
2021年度は助成対象者なし

◎広報委員会の活動

・『絵本学会ＮＥＷＳ』の編集・発行　70号（2021.7.30）、71号（2021.11.30）、72号（2022.3.31）
・ホームページの管理

◎日本絵本研究賞運営委員会の活動

・第5回日本絵本研究賞等候補（2021）の選考

◎日本学術会議協力学術研究団体への絵本学会の登録申請

・10/28付協力学術団体として指定

◎他学会等との連携

◎絵本学会事務局の移転

2021年度より事務局業務の一部を毎日学術フォーラムに業務委託。
事務局の所在を刈谷市美術館（松本育子事務局長）から毎日学術フォーラムに移転。
絵本学会本部を平和学園（神奈川県茅ヶ崎市）に設置。

◎入退会
2021年度新入会者：38名、退会者：18名
除籍者：16名　（2022年3月末現在）

（イラストレーション：曾子安）

絵本学会2022年度活動計画

◎第25回絵本学会大会の開催
2022年6月11日(土)、12日(日)　小田原短期大学（神奈川県小田原市）オンライン開催
テーマ：共生の時代と絵本のゆくえ

◎企画委員会の活動
・絵本フォーラム等の開催

◎紀要編集委員会の活動
・絵本学会研究紀要『絵本学』第25号の編集・刊行
・2022年度絵本研究参考文献目録（2022年1月～12月発行分）の作成
・2022年度絵本原画展・絵本画家展リスト（2022年1月～12月開催分）の作成

◎機関誌編集委員会の活動
・機関誌『絵本BOOKEND 2022』の編集・刊行、『絵本BOOKEND2023』編集
・バックナンバーの販売促進

◎研究委員会の活動
・研究会の開催
・絵本研究助成

◎広報委員会の活動
・『絵本学会ＮＥＷＳ』の編集・発行　年3回（73、74、75号）の予定
・ホームページの管理

◎日本絵本研究賞運営委員会の活動
・日本絵本研究賞の運営検討

◎他学会等との連携

◎その他

絵本学会　2021年度決算報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

単位：円

科目		予算額	決算額	増減（予－決）	
Ⅰ事業活動収支の部					
1.事業活動収入					
	①受取会費収入	4,180,000	4,496,000	−316,000	
	賛助会員	140,000	140,000	0	20,000×7口分（現在7団体）
	正会員	4,000,000	4,288,000	−288,000	8,000×延503名+新入会33名（3/31現在　524　）
	準会員	40,000	68,000	−28,000	延べ準会員a4名、準会員b14名（内22年度入会1名）
	②事業収入	220,000	31,500	188,500	
	研究活動事業収入	20,000	0	20,000	
	フォーラム収入	20,000	0	20,000	オンライン開催のため無料
	研究会収入	0	0	0	オンライン開催のため無料
	出版事業収入	200,000	31,500	168,500	『絵本BOOK END』売上（朔北社2020、21年年度分）
	③雑収入	150,100	112,051	38,049	
	受取利息収入	100	6	94	
	入会金収入	100,000	86,000	14,000	入会金2000円×43名（22年度入会を含む）
	雑収入	50,000	26,045	23,955	出版物在庫販売
	事業活動収入合計	4,550,100	4,639,551	−89,451	
2.事業活動支出					
	①事業費支出	2,490,000	1,115,487	1,374,513	
	人件費支出	800,000	499,126	300,874	
	事務局報酬支出	0	110,000	−110,000	前事務局（4―6月分）人件費
	事務局委託費	800,000	389,126	410,874	毎日学術フォーラムに委託（2期分）
	事業費支出	1,690,000	616,361	1,073,639	
	消耗品費支出	50,000	3,864	46,136	事務消耗品費
	印刷製本費支出	790,000	141,680	648,320	
	絵本学会ニュース	150,000	99,275	50,725	絵本学会NEWS70,71号
	研究紀要	550,000	0	550,000	『絵本学』24号(2022)が5月支払いになったため
	会員名簿	0	0	0	
	その他	90,000	42,405	47,595	学会封筒印刷代
	通信運搬費支出	520,000	360,092	159,908	NEWS等発送費・通信費
	旅費交通費支出	100,000	17,140	82,860	事務局移転関連
	会議費支出	0	0	0	
	広告費支出	140,000	84,090	55,910	
	印刷物制作費支出	0	0	0	
	HP更新作業費支出	140,000	84,090	55,910	
	振込手数料	10,000	4,495	6,110	
	雑支出	80,000	5,000	75,000	絵本学会大会労賃、発送作業など
	②活動費支出	1,370,000	943,333	426,667	
	大会運営補助金支出	400,000	384,983	15,017	ポスター等制作費を含む
	第23・24回 絵本学会大会補助金	400,000	384,983	15,017	
	専門委員会活動費支出	820,000	558,350	261,650	
	企画委員会	170,000	154,485	15,515	
	紀要編集委員会	100,000	38,476	61,524	紀要編集等
	機関誌編集委員会	100,000	14,398	85,602	『絵本BOOKEND2022』編集
	研究委員会	100,000	100,000	0	研究会主催
	広報委員会	100,000	34,247	65,753	『絵本学会NEWS』編集
	日本絵本研究賞運営委員会	250,000	216,744	33,256	
	研究助成費支出	150,000	0	150,000	
	③出版事業支出	1,200,000	1,179,750	20,250	『絵本BOOKEND2021』
	編集作業費支出	0	0		
	制作費支出	1,200,000	1,179,750	20,250	
	事業活動支出合計	5,060,000	3,238,570	1,821,430	
	事業活動収支差額	−509,900	1,400,981	−1,910,881	

Ⅱ投資活動収支の部

Ⅱ投資活動収支の部

1.投資活動収入	0	0	0
	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0
2.投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
Ⅲ財務活動の部 1.財務活動収入 長期借入金収入	0	0	0
財務活動収入計	0	0	0
2.財務活動支出 長期借入金返済支出	0	0	0
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
Ⅳ予備費支出	200,000	0	0
当期収支差額	-200,000	1,400,981	-1,600,981
前期繰越収支差額	3,270,657	3,270,657	0
次期繰越収支差額	2,560,757	4,671,638	-2,110,881

絵本学会　2022年度予算

2022年4月1日～2023年3月31日

単位：円

科目		予算額	前年度予算額	増減（予－決）	
Ⅰ事業活動収支の部					
1.事業活動収入					
	①受取会費収入	4,180,000	4,180,000	0	
	賛助会員	140,000	140,000	0	20,000×7口（現在7団体）
	正会員	4,000,000	4,000,000	0	8,000×500名（現在約500名）
	準会員	40,000	40,000	0	準会員約10名
	②事業収入	200,000	220,000	−20,000	
	研究活動事業収入	0	20,000	−20,000	
	フォーラム収入		20,000	−20,000	
	研究会収入	0	0	0	
	出版事業収入	200,000	200,000	0	『絵本BOOK END』売上
	③雑収入	130,020	150,100	−20,080	
	受取利息収入	20	100	−80	
	入会金収入	80,000	100,000	−20,000	入会金2000円×40名
	雑収入	50,000	50,000	0	出版物在庫販売等
	事業活動収入合計	4,510,020	4,550,100	−40,080	
2.事業活動支出					
	①事業費支出	2,140,000	2,490,000	−350,000	
	人件費支出	700,000	800,000	−100,000	
	事務局報酬支出	0	0	0	
	事務局委託費	700,000	800,000	−100,000	毎日学術フォーラムに委託
	事業費支出	1,440,000	1,690,000	−250,000	
	消耗品費支出	30,000	50,000	−20,000	事務消耗品費
	印刷製本費支出	610,000	790,000	−180,000	
	絵本学会ニュース	150,000	150,000	0	絵本学会NEWS72,73,74号
	研究紀要	400,000	550,000	−150,000	『絵本学』24号(2022)
	会員名簿	0	0	0	
	その他	60,000	90,000	−30,000	学会封筒印刷代
	通信運搬費支出	500,000	520,000	−20,000	ニュース等発送費・通信費
	旅費交通費支出	50,000	100,000	−50,000	理事会は原則オンライン
	会議費支出	0	0	0	
	広告費支出	160,000	140,000	20,000	
	印刷物制作費支出	0	0	0	
	HP更新作業費支出	160,000	140,000	20,000	
	振込手数料	10,000	10,000	0	
	雑支出	80,000	80,000	0	「研究倫理規程」作成費用含む
	②活動費支出	1,170,000	1,370,000	−200,000	
	大会運営補助金支出	400,000	400,000	0	ポスター等制作費を含む
	第25回 絵本学会大会補助金	400,000	400,000	0	
	専門委員会活動費支出	620,000	820,000	−200,000	
	企画委員会	170,000	170,000	0	
	紀要編集委員会	100,000	100,000	0	紀要編集等
	機関誌編集委員会	100,000	100,000	0	『絵本BOOK END』編集
	研究委員会	100,000	100,000	0	研究会主催
	広報委員会	100,000	100,000	0	『絵本学会ニュース』編集
	日本絵本研究賞運営委員会	50,000	250,000	−200,000	
	研究助成費支出	150,000	150,000	0	
	③出版事業支出	1,200,000	1,200,000	0	『絵本BOOKEND2022』
	編集作業費支出	0	0	0	
	制作費支出	1,200,000	1,200,000	0	
	事業活動支出合計	4,510,000	5,060,000	−550,000	
	事業活動収支差額	20	−509,900	509,920	
	事業活動収支差額	20	−509,900	509,920	

研究委員会からのお知らせ

◎2022年度絵本研究会開催のお知らせ

研究委員会では、会員の皆様と絵本研究を深めていく機会となるよう、今年度も「絵本研究会」の開催を予定しています。

2022年度は下記のとおり、新潟大学名誉教授の眞壁伍郎先生に「ベッティーナ・ヒューリマンの働き―日本の絵本を世界に―」と題してご講演いただきます。

戦後の日本の絵本を世界に紹介するという功績を残した一人に、スイスの児童文学者ベッティーナ・ヒューリマンがいます。ヒューリマンは、300年にわたる子どもの本の歴史を『ヨーロッパの子どもの本』上・下（ちくま学芸文庫）に著し、世界の絵本の蒐集家としても知られています。国際アンデルセン賞の選考者でもあった彼女が、どういったいきさつから日本の絵本を知り、それを世界に向けて紹介するようになったのか。どのような絵本が、これは！と彼女を捉えたのか。眞壁先生のご講演から、ご一緒に考えてみましょう。

皆様のご参加をお待ちしております。

講演会「ベッティーナ・ヒューリマンの働き―日本の絵本を世界に―」

＊日時：2022年10月29日(土) 14:00～16:00
（ご講演＋質疑応答）
＊講師：眞壁伍郎氏（新潟大学名誉教授）
＊開催方法： Zoom（ズーム）を用いたオンライン開催
＊定員：100名（先着順）
＊参加費：無料
（絵本学会会員外の方も参加可能です。参加受付開始日は会員と異なります。）
＊申し込み受付開始
絵本学会会員：9月 1日（木）9:00から
一般参加者　：9月15日（木）9:00から
どちらも受付締切は10月15日（土）20:00まで
＊申し込み方法： QRコードもしくはhttps://x.gd/lX1RB から の電子申請（Googleフォーム）にてお申し込みください。
参加者には、10月22日（土）にZoomのURLをメールにてお送りする予定です。

【お願い】
＊参加URLは、申込者のみにお知らせします。外部に漏らすことはお控えいただき、必ずお一人ずつお申込みください。
＊録画や録音、画面の撮影やスクリーンショットはお控えください。掲示資料に関する著作権、参加者の個人情報保護の観点からも、厳守をお願い致します。
＊記録用に録画しますが、個々の通信環境の不備などのご事情に関わらず録画配信は行いません。
＊Zoomの使い方や通信環境などのサポートはできかねますが、ご了承ください。
（参加者には、URLお知らせ時にZoomへの参加方法についてご連絡します）

＊問い合わせ先：絵本学会研究委員会
ehongakkai.kenkyu@gmail.com

日本絵本研究賞運営委員会からのお知らせ

▪第5回日本絵本研究賞・日本絵本研究賞特別賞
絵本についての優れた論文、評論、報告及び著書の推薦を下記のように募集します。

【経緯】

1997年に創設された絵本学会は、創立２０周年を記念して、絵本研究や評論活動のさらなる活性化を図るため、「日本絵本研究賞」を創設しました。

第3回の日本絵本研究賞選考委員会に於いて、日本絵本研究賞のあり方についての抜本的な見直しが必要であるとの認識をもとに、日本絵本研究賞の開催を一旦中断し、日本絵本研究賞特別委員会及び絵本学会理事会において鋭意見直しの検討を行いました。

その結果、第４回より以下１）～５）の通りに内容を変更しました。さらに第５回からの変更点として６）を加えました。

１）優れた論文・評論・報告を対象とする「日本絵本研究賞」のほかに、新たに著書を対象とする「日本絵本研究賞特別賞」を設ける。
２）絵本学会の単独の主催とする。後援には公益社団法人全国学校図書館協議会他を予定。
３）作品の募集は、賞の選考対象期間内に発表された絵本研究から絵本学会会員による推薦（自薦及び他薦）によって行う。会員による推薦は毎年募集する。
４）一次選考は、会員による推薦（自薦及び他薦）をもとに、日本絵本研究賞運営委員会（日本絵本研究賞特別委員会の名称を変更）が行う。一次選考は毎年開催する。
５）最終選考は、運営委員会の一次選考をもとに、選考委員会によって３年に一度行い、入賞発表及び表彰は絵本学会大会で行う。第４回は例外的に２年分の論文等と著書を対象としたが、第５回目以降は３年分の論文等と著書を対象に３年に一度行う。
６）「日本絵本研究賞」の対象となる優れた論文・評論・報告については、一次選考の結果を学会ニュース等で単年度毎に公表し、「第〇回日本絵本研究賞候補（西暦年）」として顕彰する。

日本絵本研究賞・日本絵本研究賞特別賞は、論文等、著書の作者が絵本学会会員であるか否かや文字数の制限無く、対象期間内に発表されたすべての絵本研究の中から、最も優れた作品を選び、表彰します。絵本学会は、学会員の協力を得ることにより、この賞が日本の絵本研究と絵本学会の発展につながることを確信して、全力で取り組んでいきます。

会員の皆様のたくさんの推薦をお待ちしています。

◎主催　絵本学会
◎後援　公益社団法人全国学校図書館協議会他
◎賞の種類
・「日本絵本研究賞」（以下研究賞とする）：絵本研究や評論活動に関するすぐれた論文等に対して与えられます。今後に期待できる意欲的な論文等に対しては日本絵本研究賞奨励賞が与えられます。
・「日本絵本研究賞特別賞」（以下特別賞とする）：絵本研究や評論活動に関する特にすぐれた著書に対して与えられます。
◎賞の対象

２０２０年１０月１日～２０２３年９月３０日の期間内に発表された、絵本についての研究論文や評論、報告（実践、調査報告）。＊ブログ、ＳＮＳ、個人的な趣の強い発表などは除きます。研究賞は、学会・大学・博物館・美術館・文学館等の紀要、展覧会図録などに発表された論文、評論、報告を対象とします。紀要などへの掲載回数や文字数は問いません。特別賞は、上記期間に発表された著書を対象とし、特に優れていると認められる場合に授与します。

尚、対象となる論文等・著書の著者は絵本学会会員でなくてもかまいません。

◎２０２２年推薦（自薦及び他薦）受付期間

２０２２年１１月１日（火）～１１月３０日（水）必着。
対象：2021年10月1日～2022年9月30日の期間に発表された論文、評論、報告及び著書
◎推薦宛先・問い合わせ先

なお、推薦宛先・問い合わせ先は、以下の通りです。
◎推薦宛先・問い合わせ先

〒150-8938
東京都渋谷区広尾　４－３－１
聖心女子大学現代教養学部教育学科　水島尚喜研究室　気付
「日本絵本研究賞運営委員会」受付　宛
e-mail：info@ehongakkai.com
推薦方法等は絵本学会ホームページでも公開します。

◎推薦資格
・絵本学会会員　２０２２年１０月１日（土）時点で入会手続きが完了していることとします。
・研究賞は絵本に関する論文、評論、報告を、特別賞は絵本に関する著書を推薦できます。

◎推薦方法・推薦規程
・推薦に際しては絵本学会ホームページから所定の書式をダウンロードしてください。送付先を明記した封筒には「日本絵本研究賞」と朱書きしてください。
・研究賞は、推薦される論文・評論・報告の著者名、タイトル、掲載誌（掲載URL）、出版社（発行者）、出版年月等を明記し、

200～300字程度の推薦理由を付け、抜き刷りまたはコピー１部を添えてお送りください。
・特別賞の場合は著者名、タイトル、出版社（発行者）、出版年月等を明記し、200字～300字程度の推薦理由を付けてお送りください。自薦の場合は、該当の著書１冊をお送りください。（返却希望の場合は、返送先を明記したレターパック等を同封してください。）
・自薦・他薦は問いません。
・それぞれについて、お一人で複数の推薦をすることが可能です。
・メールによる問い合わせの際には、「日本絵本研究賞」と但し書きをしてください。

◎入賞発表
２０２４年の絵本学会大会で発表します。次いで『絵本学会ＮＥＷＳ』、機関誌『絵本ＢＯＯＫＥＮＤ』、及び全国学校図書館協議会発行の『学校図書館』『学校図書館速報版』に掲載します。

◎表彰
日本絵本研究賞、日本絵本研究賞特別賞の表彰式は２０２４年開催予定の絵本学会大会において挙行します。

◎賞
日本絵本研究賞　賞状及び賞金（５０、０００円）
日本絵本研究賞奨励賞　賞状及び賞金（３０、０００円）
日本絵本研究賞特別賞　賞状及び賞金（５０、０００円）

◎受賞作品の掲載
受賞作品の要旨を、直近で発行予定の『絵本学会ＮＥＷＳ』、あるいは機関誌『絵本ＢＯＯＫＥＮＤ』に掲載します。

◎選考委員
理事会において「第５回日本絵本研究賞・日本絵本研究賞特別賞」の新たな選考委員の選任を行います。決定しだいお知らせします。

『絵本学』第25号投稿募集案内

『絵本学』第 25 号（2023 年 3 月刊行予定）の投稿を募集します。今号よりメールでの電子投稿に変わります。ご投稿の際には下記の投稿規程を十分にお読みください。執筆要項は最新版を絵本学会ホームページよりご確認ください。

投稿締切日：2022 年 9 月 30 日（必着）
原稿送付先：絵本学会紀要編集委員会
ehongaku.kiyo@gmail.com

研究紀要『絵本学』投稿規程（2022 年 3 月改正）

1. 投稿資格
絵本学会会員および準会員で、当該年度 8 月 31 日までに会員資格を有していること。
2. 投稿の種類
絵本に関する研究論文、研究ノート、論説で未発表のもの。
【研究論文】研究の視点や手法、理論展開および結論に独創性や説得力が高く認められるもの。
【研究ノート】研究の基礎データになる資料調査・実践などの報告、あるいは理論構築の可能性が認められるもの。
【論説】学術的な論で、注目すべき研究・作品・作家・展覧会・活動を取り上げての評論など。
3. 投稿原稿の採否
1）査読に基づき、紀要編集委員会が採否を決定する。必要に応じて紀要編集委員の外に査読を依頼する。
2）紀要編集委員会は執筆者に内容の修正を求める場合がある。
3）採否の結果は当該年 12 月末までに執筆者に通知する。執筆者は採否の結果について説明を求めることができる。この場合、紀要編集委員会は申し出内容を精査の上、適正範囲内で回答する。
4. 執筆要領
執筆は別に定める「執筆要項」（絵本学会ホームページに掲載）に則ること。
5. 著作権
1）『絵本学』に掲載される論文等の著作権は執筆者に帰属する。執筆者は掲載決定後、絵本学会に、著作権のうち複製権の行使を再許諾権付きで許諾するものとする。
2）論文等に引用される文章、図版、写真等の著作権に関する事項はあらかじめ執筆者の責任において処理すること。
6. 研究倫理
1）研究は十分な倫理的配慮の上に行うこと。
2）個人事例を取り上げる際には、個人情報や秘密を保護することに配慮する。研究対象者・保護者・所属長、研究協力者などから文書による承諾を得、論文等にその旨を記載する。

7. 投稿締切日
当該年 9 月 30 日（必着）
8. 刊行
当該年度内
9. 原稿の送付
1）原稿は電子データをメールに添付して送付する。
2）原稿送付先：絵本学会紀要編集委員会（メールアドレスは別に指定）

（イラストレーション：山田白百合）

『絵本学』に掲載された研究論文等の機関リポジトリへの登録について

絵本学会研究紀要『絵本学』に掲載された研究論文等を機関リポジトリに登録する際の条件および申請手続きの方法がこの度、定められました。機関リポジトリに登録を行う場合は、以下の登録条件を承諾いただき、絵本学会に登録申請書の提出をお願いいたします。

機関リポジトリ登録の条件

1. 『絵本学』掲載号の発行日より 1 年を経ていること。
2. 研究論文等の出典表示を行うこと。
3. 執筆者の許諾を事前に得ること。
4. リポジトリ登録における研究論文等のインターネット公開に際し、文中に引用掲載される図版、写真等の著作権の処理を行うこと。
（図版写真等の掲載は、冊子体である『絵本学』では著作権者および出版社の許諾を得られていても、インターネット公開の場合は新たに許諾を得ることが必要です。必ず事前に著作権者および出版社等への許諾申請を行ってください。）
5. リポジトリ登録における研究論文等のインターネット公開に際し、個人の情報およびデータを扱う研究論文等の場合は、研究対象者を始めとする関係者の許諾を得ること。また文中の図版、写真等の掲載において、個人や個人の作品等が被写体である場合も、同様の許諾を得ること。
（冊子体である『絵本学』では公表や掲載の許諾を得られていても、インターネット公開の場合は新たに許諾を得ることが必要です。必ず事前に関係者への許諾申請を行ってください。）

機関リポジトリ登録申請書を絵本学会ホームページよりダウンロードし、必要事項を記入の上、絵本学会（担当：紀要編集委員会 ehongaku.kiyo@gmail.com）までメールに添付してお送りください。１～２週間以内に承諾に関する返信をいたします。

新入会員自己紹介

新居　明子

（名古屋外国語大学　准教授）

はじめまして。このたび絵本学会に入会した新居明子（にいあきこ）です。もともとの専門は中世英文学と英語教育ですが、研究活動とは別に、これまで地元のボランティアグループのメンバーとして、公共図書館や学童クラブなどで英語絵本の読み聞かせ活動をしてきました。また勤務校と市立図書館との連携事業というかたちで、英語絵本のイベントを定期的に開催しています。

今年度秋学期から、勤務校が一般に開講しているオープンカレッジと、NHK文化センターの両方で、英語絵本に関する講座を担当することになりました。絵本学会で、豊かな絵本の世界について、専門的に学ばせていただきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

内原　香織

この４月に絵本学会に入会いたしました。専門は臨床心理学です。

絵本との出会いは、私自身の子育てがきっかけでした。絵本をひらく時の、子どもたちの期待に満ちた表情や、真剣に物語に耳を傾ける様子、体全体で喜びを表現する姿に、絵本の力を感じると共に、私自身も絵本の世界に惹かれて、学びを深めたいと思うようになりました。特に、絵本の読み聞かせを通した子どもの心の発達に関心があります。皆様との出会いの機会を心より楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

岡　大輔

（大牟田市ともだちや絵本美術館 プロデューサー、株式会社環境デザイン機構取締役）

福岡県大牟田市に昨年10月1日に開館しました、大牟田市ともだちや絵本美術館の管理運営をしております。当美術館は、動物園内に誕生した、わが国初の絵本美術館で、絵本をきっかけにした新たなコミュニケーションの可能性を探りながら、市民の皆さまと一緒に育てていくことを目指しております。開館後まだ1年足らずであり、大牟田市出身の絵詞作家である内田麟太郎さんの『ともだちや』他、収蔵させていただいている多くの原画展示や、アートイベント、ワークショップなどを試行錯誤しております。絵本学会では、様々な研究や活動をより良い美術館運営の参考にさせていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

加藤 友彦

（大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科・准教授）

絵本学会会員の皆様、初めまして。加藤 友彦 （かとう ともひこ）と申します。短期大学で教員として勤めております。専門領域は美術教育です。卒業研究で絵本の絵柄をテーマとした学生のいたことから、絵本学を知り、絵本に興味を持ち研究を始めました。その中で、優れた絵本には名画に匹敵する芸術性のあることに気づきました。絵本は子どもが初めて出会う文学であり美術でもあると思います。今後は、絵本の絵柄（造形性）を研究しつつ、絵本の制作もしてみたいと考えています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

佐々木直美

（山口県立大学　教授）

絵本は、子どもの頃に読み、今、親となって子どもに読み、と大変身近な存在でした。

私は、絵を描くことも（下手ですが）好きで、お話を作るのも好きです。

しかし、「研究」として絵本に取り組むことは、なぜかこれまで考えてこなかった。そこへ、絵本学会会員の中藤由佳美さんとのご縁があり、なじみのある絵本と、自身が長くやっている研究の視点とが合致し、「もっと絵本を深めていきたい」という思いが生まれ、入会しました。これから、絵本学会の皆様とともに、心をまあるくあたたかく、絵本の世界に入っていきたいです。

堀内雅代

（高等学校講師）

目まぐるしく変わっていく今の世の中で「絵本」だけは変わってほしくないと考えています。どんなに便利な世の中になっても、どんなにコミュニケーションというものの形が変わっても、親が子に読み聞かせる「絵本」という文化が、進化や進歩を遂げることは望ましくないと私は思っています。

今までのまま、今のまま、「絵本」は「絵本」であり続けてほしいのです。

「絵本」を読んでもらったという経験は、心を育てる種になります。どんな絵本を読んでもらっていたかという記憶が、心を支える柱となります。

私は「絵本」という文化の今の形を守るために、「絵本」の研究を続けていきたいと考えています。

平野　拓朗
（鹿児島大学　講師）

この度、絵本学会に入会させて頂きました平野拓朗と申します。大学では教育学部に所属し、教育方法学を専門に教育、研究を進めています。とくに、ロシアの心理学者レフ・ヴィゴツキーという人の発達論に関心があり、教育（や学習）と発達との関連について考えています。

ところが、この教育、学習、発達について考えていると、この３つの枠組みには収まらないものに非常に心魅かれます。「もこ　もこもこ」と。

これまで絵本についての研究は専門に行ったことはありませんが、絵本の世界に参加し、その世界を（心躍らせて）生きるとはどのような経験であるのか、ということに関心があります。私自身、兵庫県の西宮で生まれ育ち、毎年絵本の原画展に行っては絵本に魅了されてきました。あのときの経験について考えてみたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

2021年度絵本学会第3回理事会議事録

日　時：2022年1月9日（日）14：00～
　　於：オンライン
出　席：藤本朝巳（会長）　丸尾美保（会長代理）
　　佐々木由美子（事務局長）　甲木善久　鈴木穂波
　　長野麻子　馬見塚昭久　水島尚喜　宮崎詞美
　　山本美希
記　録：（佐々木）
　　＊次回、鈴木先生。以後、五十音順で担当

議事次第　前回2021年度第2回絵本学会理事会議事録およびメール審議議事録が承認された

◆　報告事項

1. 各委員会報告

①企画委員会

2021年度絵本フォーラムについて

山本委員長から、2021年度絵本フォーラムについて、すでに収録は終了したこと、また申し込み状況については現在会員40名ほどの申し込みがあり、明日（1/10）から一般の申し込み受付が始まる旨の報告があった。

②紀要編集委員会

長野委員長から、研究紀要『絵本学』第24号の投稿および採択状況について報告があった。投稿数10編、採択2編となる。
また、見やすさを考慮し、紀要冊子におけるフォントやや大きめにすること、レイアウトをユニバーサルデザインに変更する旨の報告があった。

前回、継続審議となった、紀要投稿論文等の機関リポジトリ登録への対応については、委員会内で引き続き検討をおこなっていること、また研究倫理審査委員会の設置についても検討していく必要があることが報告された。

③機関誌編集委員会

『絵本BOOKEND』2022（19号）について

甲木委員長から、文伸出版とのやりとりの遅れもあり、12月から作業がとまってしまっていること、自身の体調や精神状態が悪く、委員長としての役割を果たせない状況が説明された。藤本会長と相談しつつ、進めていくことが確認された。

④研究委員会

鈴木委員長より、資料に基づき、2021年度絵本研究会「『絵本画家　赤羽末吉　スーホの草原にかける虹』を語る」の終了報告がされた。会員22名、一般35名、不明3名、計60名が参加し、好評であったことが報告された。来年度も、オンラインで講演会を行う予定である。

⑤広報委員会

馬見塚委員長より、絵本学会NEWS72号（3月31日発行）について、締め切りは2月末日であることと、次回ニュースの内容が共有された。

また、宮崎委員より、イラストの公募について1名から応募があった旨が報告された。応募者より、自身のイラストが学会NEWSに掲載されたこと等を、SNSで発信してもよいかという問い合わせがあったことが共有され、良識の範囲内での掲載は問題ないことが確認された。

⑥日本絵本研究賞運営委員会

水島委員長より、資料に基づき、第5回日本絵本研究賞進捗状況報告があった。

学会員の推薦では、研究賞（論文）候補1点、研究賞特別賞（書籍）2点だったが、選考規則第3条に基づき、委員会による追加推薦を1月末日まで行い、現時点では研究賞3編、特別研究賞2編が候補となっている旨が報告された。

また、学術団体になったことで、今後の賞の在り方について検討していく必要があることが共有された。

2. 「日本学術会議協力学術研究団体」学会名鑑への機関登録について

藤本会長より、資料をもとに日本学術研究団体学会名鑑への登録内容について報告された。今後、日本学術団体主催の行事等についても、学会HPを通して会員に周知していくことが確認された。

3. 事務局より

佐々木事務局長より、日本児童文学学会から日本児童文学学会創立60周年記念論文募集の告知依頼があった旨が報告され、絵本学会HPおよびNEWS等で会員に周知することになった。また、次年度業務委託について、現在、継続委託の方向で進めていることが報告された。見積等がでたあとに、メール審議等で承認をしていただく予定である。

◆　審議事項

1. 入退会者について

以下の新入会者（敬称略）が承認された。

正会員：橋本香織　松村薫子　小林夏美　3名

準会員b：木澤杏那　1名　計4名

2. 後援依頼について

軽井沢絵本の森美術館・春夏展「フェアリーテイルの世界」の後援をすることが承認された。

会　期：前期2022年3月2日（水）～6月20日（月）

後期2022年6月22日（水）～10月10日（月）

3.　2022年度　第25回絵本学会大会について

馬見塚実行委員長より、資料に基づき計画案が説明され、現案通り承認された。詳細については3月理事会で審議・承認の予定である。

開催日：6月11、12日　オンライン開催

会費：学会員1000円、一般1500円、学部生500円

会場校：小田原短期大学

テーマ：「共生の時代と絵本のゆくえ」

4. 各委員会

①紀要編集委員会

研究紀要『絵本学』投稿規程と執筆要項の一部改正案について

長野委員長により資料に基づき説明がなされ、次年度以降、事務局を通さず、直接紀要編集委員会がメールで論文を受け付ける形に変更することが承認された。

改正部分が広範にわたるため、一つ一つの項目については継続審議とし、慎重に審議をすすめることになった。今回指摘されたのは以下の点である。

・研究倫理委員会等が投稿者の勤務校にない場合への配慮

・著作権の帰属について

・レイアウトに関する表記

次号、学会NEWS72号では、論文の募集、締切、提出方法の変更を告知し、改正版の執筆要項や投稿規程については、次々号73号に掲載することとする。また、規程の施行日については、理事会での承認日が施行日となることが確認された。

②機関誌編集委員会

特になし

③研究委員会

2022年度研究助成について

鈴木委員長より、資料に基づき説明があり、申請書を一部修正のうえ、原案通り承認された。修正点は、研究調査の種類欄の「いずれか一つにチェック」の削除である。

④広報委員会

特になし。

⑤日本絵本研究賞運営委員会

特になし。

5. その他

特になし。

次回（第4回）の予定

2022年3月3日（木）午後か夜の予定

2021年度絵本学会第4回理事会議事録

日　時： 2022年3月3日（木）19：30～22:00
　　於：オンライン
出　席：　藤本朝巳（会長）　丸尾美保（会長代理）
　　佐々木由美子（事務局長）　長野麻子
　　馬見塚昭久　水島尚喜　宮崎詞美　山本美希
　　鈴木穂波（記録）
欠　席： 甲木善久

議事次第

◆　**議事録の承認**

2021年度第3回絵本学会理事会議事録およびメール審議議事録が承認された。

◆　**報告事項**

1. 各委員会報告

①企画委員会

絵本フォーラム2021「コロナと絵本」について、山本委員長より資料に基づき、2月2日～16日までの動画配信で実施し、98名の参加申込者ほぼ全員が視聴したこと等が報告された。

②紀要編集委員会

長野委員長より、研究紀要『絵本学』第24号の発行に向けて順調に進められていることが報告された。

③機関誌編集委員会

『絵本BOOKEND』2022（19号）について、宮崎委員より澤田委員（編集委員長代理）からの資料に基づき、10月の発行に向けて編集を進めていることが報告された。なお、実働委員が不足のため、経験者に依頼したいとの希望が出された。また藤本会長より、次年度の編集委員会の体勢については、今後考えていく必要がある旨説明があった。

④研究委員会

絵本研究会2021講演録の発行について鈴木委員長より資料に基づき報告され、内容について確認された。また、2022年度研究助成について、次号ＮＥＷＳとＨＰに執筆要項と応募用紙を掲載し、6月1日から募集を開始する旨報告された。

⑤広報委員会

広報委員会企画『春に贈る一冊の絵本』募集の結果等について、馬見塚委員長より資料に基づき、応募なしのため今号では掲載を見送り、今後の募集方法等については委員会で再度検討する旨報告された。

⑥日本絵本研究賞運営委員会

第5回日本絵本研究賞2021度審査結果報告について、水島委員長より資料に基づき2021年度研究賞の優秀賞2点、2021年度特別賞（書籍）の優秀賞1点および次点2点が報告された。

2. 事務局報告

佐々木事務局長より資料に基づき、第23・24回絵本学会大会決算報告について説明があった。また、事務局の毎日学術フォーラムがビル内で9階から7階に移転するため、ＨＰ等の住所変更が必要な旨報告された。

◆　**審議事項**

1．入退会者、除籍者について

資料に基づき、以下承認された。

入会者（敬称略）　正会員2名　　岡大輔　上原明子
退会者（敬称略）　正会員1名　　田中健夫
除籍者11名　　岩田英作、大宜見優子、齋藤壽始子、
焦一然、申明浩、久本直子、村松麻里、山下明美、
山部晶子、吉田尚美、渡邉万由美

2.　2022年度 第25回絵本学会大会について

馬見塚実行委員長より大会プログラムについて資料に基づき説明があり、原案通り承認された。なお、基調講演の字幕や著作画像および録画の使用についてはまず講演者に相談し、次回理事会で検討することとした。

また、佐々木事務局長より研究発表の座組案が資料に基づき示され、原案通り承認された。なお、研究発表と作品発表の座長については理事で分担し、理事以外の会員には実行委員長から依頼することが確認された。

3. 次年度業務委託について

佐々木事務局長より資料に基づき次年度の業務委託契約内容について説明があり、承認された。

4. 各委員会より

①紀要編集委員会

長野委員長より資料に基づき、研究紀要「絵本学」投稿規程改正案および執筆要項改訂案について、各理事からの意見聴取を踏まえたうえでの委員会における審議結果が示され、審議された。

1）「内容」から「報告」を削除　→実践研究について修正を加える
2）　掲載論文の著作権は執筆者に帰属　→説明を加える
3）　研究倫理への配慮　→会長が諮問委員会を立ち上げ、最終の精査については次年度予算立てをする。

次号ＮＥＷＳへの掲載を視野に3月10日までに、以上の意見を反映した修正案の承認を目指すこととした。

②機関誌編集委員会

特になし

③研究委員会

特になし

④広報委員会
　特になし
⑤日本絵本研究賞運営委員会
　特になし

＊次回理事会日程について
　2022年4月29・30日、5月1日のいずれかを予定し、今後調整する。なお、次回記録は長野理事。

2021年度理事会メール審議議事録（1-3月）

2021年度理事会　第9回メール審議議事録
日　　時：2022年1月16日（日）発信
回　　答：藤本朝巳（会長）　丸尾美保（会長代理）
　　佐々木由美子（事務局長）
　　甲木善久　鈴木穂波　長野麻子　馬見塚昭久
　　水島尚喜　宮崎詞美　山本美希

◆審議事項
1.　後援依頼について
ちひろ美術館「幼い日に見た夢　いわさきちひろ展」の後援をすることが承認された。
会期：2022年3月12日（土）～6月19日（日）

2021年度理事会　第10回メール審議議事録
日　　時：2022年2月1日（火）発信
回　　答：藤本朝巳（会長）　丸尾美保（会長代理）
　　佐々木由美子（事務局長）
　　甲木善久　鈴木穂波　長野麻子　馬見塚昭久
　　水島尚喜　宮崎詞美　山本美希

◆審議事項
1. 新入会員について
以下の新入会者（敬称略）が承認された。
入会者：
正会員　：平野拓朗　稲原吉夫　吉田進み矢　　3名
準会員a　：池田奈央　　1名
　　計4名
退会者：藤田百合　出口マクドナルド友香里（2021年度末をもって退会）　2名

◆報告事項
　甲木機関紙編集委員長より、2022年度の『絵本BOOKEND』の企画案が報告された。特集はアニミズムの絵本とし、8～9月の発行予定とする。

2021年度理事会　第11回メール審議議事録
日　　時：2022年2月13日（日）発信
回　　答：藤本朝巳（会長）　丸尾美保（会長代理）
　　佐々木由美子（事務局長）
　　甲木善久　鈴木穂波　長野麻子　馬見塚昭久
　　水島尚喜　宮崎詞美　山本美希

◆審議事項
1. 「絵本研究参考文献目録」「絵本原画展・画家展リスト」の紀要第24号掲載について
　長野紀要編集委員長より、「絵本研究参考文献目録」「絵本原画展・画家展リスト」が示され、原案通り承認された。

2021年度理事会　第12回メール審議議事録
日　　時：2022年3月31日（木）発信
回　　答：藤本朝巳（会長）　丸尾美保（会長代理）
　　佐々木由美子（事務局長）
　　甲木善久　鈴木穂波　長野麻子　馬見塚昭久
　　水島尚喜　宮崎詞美　山本美希

◆審議事項
1.　新入退会会員について
以下の新入会者（敬称略）が承認された。
入会者：
正会員：新居明子、三井敏朗、山口由紀子　　3名
退会者：張 政婷（CHANG CHENG TING）（2021年度末をもって退会）1名

2.　第25回絵本学会大会の後援名義について
　馬見塚第25回大会実行委員長より、小田原短期大学と小田原市教育委員会から絵本学会大会の後援名義をいただき、チラシやプログラム等に掲載したい旨の提案がなされ、承認された。

3.　三学会合同声明について
　藤本会長より、日本児童文学、英語圏児童文学、絵本学会の３学会の理事会合同で、ロシアのウクライナ侵攻に対する抗議声明を発信したい旨の提案がなされ、承認された。

2022年度絵本学会第1回理事会議事録

日　　時：2022年5月8日（日）14：00～16：30
　　於：オンライン
出　　席：藤本朝巳（会長）　丸尾美保（会長代理）
　　佐々木由美子（事務局長）　鈴木穂波
　　長野麻子　馬見塚昭久　水島尚喜　宮崎詞美
　　山本美希
欠　　席：甲木善久
記　　録：長野麻子

議事次第

議事録確認

2021年度第4回絵本学会理事会議事録と第9回～12回、2022年度第1回メール審議議事録が承認された。

◆報告事項

1. 各委員会報告

①企画委員会　なし

②紀要編集委員会

・『絵本学』第24号の発行の遅延について

4月１４日の納品後、カラーページの印刷の不具合と背文字の欠落のため、返品・再印刷し、5月11日の再納品後、5月中に事務局から会員に発送されることが報告された。

・絵本研究参考文献目録の執筆者辞退について

執筆者の浅野法子先生氏より、校務の都合による辞退の申し出があり、執筆責任者の丸尾美保氏が第25号以降の後任者の手配を行うことが報告された。

③機関誌編集委員会

・『絵本BOOKEND』2022（19号）の進捗状況について（資料1）

甲木委員長の病気により、委員会が機能せず、辞任を希望する委員がおり、『絵本BOOKEND』2022（19号）の刊行が難しい状況にあることが報告された。編集の進捗状況は資料の通りで、来年度との合併号による刊行も検討しているとのことである。

④研究委員会

・2022年度の事業計画について（資料2）

・活動予定（案）について（資料3）

資料の通り、2022年度事業計画と活動予定に沿って研究助成と絵本研究会の事業を進めていることが報告された。絵本研究会のチラシは8月に発送される予定である。

⑤広報委員会

・2022年度の学会NEWS発行予定等について（資料4）

資料の通り、『絵本学会NEWS』73号の発行計画が報告された。前回の委員会独自企画「春に贈る1冊の絵本」の応募者がいなかったため、独自企画を見送る。藤本会長より、絵本モニターに執筆を依頼することも可能との提案がなされた。

⑥日本絵本研究賞運営委員会

『絵本学会NEWS』73号に今年度の日本絵本研究賞等の公募案内を掲載予定であることが報告された。

◆審議事項

１．入退会者について　（資料5）

以下の新入退会者（敬称略）が承認された。

入会　正会員　有田洋子　冷韜　佐々木直美　石黒芙美代
　　加藤友彦　及川聡真　佐藤三輪　堀内雅代
　　8名

退会　　岡本美由紀　佐藤加与子　谷口秀子　森高光広
　　篠田悦和　権藤桂子　内田早穂子　金子朝子
　　川野圭子　吉川聡子　　10名

2.　第25回絵本学会大会　25周年記念企画の一般公開について（資料6）

絵本学会大会の有料企画であることを考慮し、動画を一般公開する場合は、大会から一定期間を置くことが望ましく、なおかつ絵本学会大会の公開動画であることの明記も行うことを条件とする等の意見が出された。動画の内容を確認し、大会終了後に具体的な検討を行うことが確認された。

3.　2021年度決算報告（資料7）および2022年度予算案について（資料8）

金額、記載事項の一部訂正と確認の上、総会で決算報告、予算案について佐々木事務局長から説明を行うことで承認された。

4.　2021年度事業報告および2022年度活動計画について（資料9）

広報委員会と紀要編集委員会の出版物の発行に関して、『絵本学』24号と『絵本学会NEWS』72号の納期と支払い時期が年度をまたぐため、佐々木事務局長より記載の変更が提案された。ただし、各々の発行日は2021年度である必要から、藤本会長、丸尾会長代理、佐々木事務局長の間で再検討することが確認された。

5.　各委員会

①紀要編集委員会

『絵本学』掲載論文等の機関リポジトリ登録について（資料10）

承認された。総会の審議事項とし、資料を添付の上、藤本会長から発議、長野委員長から説明することが確認された。

②機関誌編集委員会

　藤本会長より以下の発議があり、承認された。

今年度号『絵本BOOKEND』２０22を休刊し、来年度号との合併号を刊行する案があるが、年次報告の意味も含め、今年度号を刊行すべきである。絵本学会会則に沿って、藤本会長が機関紙編集委員会委員長代理を務め、委員、理事に協力を求めながら編集を継続する。10月～11月に刊行を予定。刊行時期の遅れについては総会で報告を行う。現時点で甲木委員長、澤田委員、陶山委員が辞任を希望しており、2023年度の機関紙編集委員会体制の準備も同時に進める。

③研究委員会

　なし

④広報委員会

　なし

⑤日本絵本研究賞運営委員会

　なし

6. その他

　第26回大会の会場と方法について、総会までに決定することが確認された。会場は今年度が関東のため、関　東以外の地域が望ましい。

次回の予定

2022年6月11日（土）

理事会前に必要に応じ、会長が招集することが確認された。

2022年度理事会メール審議議事録（4-6月）

2022年度理事会　第1回メール審議議事録

日　時：2022年4月8日（金）発信

回　答：藤本朝巳（会長）　丸尾美保（会長代理）

佐々木由美子（事務局長）　甲木善久　鈴木穂波

長野麻子　馬見塚昭久　水島尚喜　宮崎詞美

山本美希

◆審議事項

1.後援依頼について

　以下の2主催団体より後援名義使用の申請があり、絵本学会として後援することが承認された。

①ちひろ美術館「ちひろ美術館コレクション　江戸からいまへ　日本の絵本展」

会　期：2022年6月25日（土）～10月2日（日）

②大阪国際児童文学振興財団「第39回日産　童話と絵本のグランプリ」　会期：2022年7月1日～2023年3月31日

2022年度理事会　第2回メール審議議事録

日　時：2022年6月　3日（金）発信

回　答：藤本朝巳（会長）　丸尾美保（会長代理）

佐々木由美子（事務局長）鈴木穂波　長野麻子

馬見塚昭久　水島尚喜　宮崎詞美　山本美希

◆審議事項

1. 新入会員について

以下の新入会者（敬称略）が承認された。

入会者：正会員　田原綾　　1名

退会者：正会員　長田（唐崎）真衣　1名

2.　2023年度絵本学会大会日程及び会場校について

　鈴木理事より、以下の日程でのご提案があり、承認された。

　開催日時：2023年6月17日（土）、18日（日）

　開催校：大阪大谷大学 志学台キャンパス（富田林市）

◆報告事項

甲木理事が病気療養のため、2022年度内は理事および機関誌編集委員長を休職することとなった。

寄贈図書

・尹 惠貞 『韓国絵本にみる絵本の言語文化』（玉川大学出版、2022.4）
寄贈者：尹 惠貞

編集後記

冒頭にご報告しました通り、第25回絵本学会大会が盛会裏に終了いたしました。オンライン開催ということで技術面での心配が多々ありましたが、堪能な方々に助けていただきました。絵本学会の実力を実感した次第です。

今号も大会報告をはじめ盛りだくさんの内容となりました。お楽しみいただけましたら幸いです。

（馬見塚昭久）

2年続けてのオンライン開催大会となりました。触れて絵本を読むことや直接お会いすることのままならない中だからこそ、絵本の本質や力、作家の声を聴き学会で研究を発表し合う意味を深く考えるきっかけになりました。

たくさんの方々のご協力に心より深く感謝申し上げます。

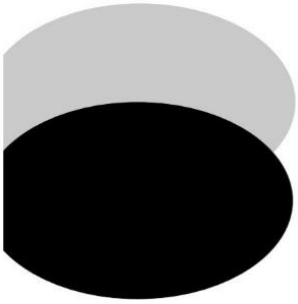
（宮崎詞美）

第25回絵本学会大会を無事に終了して、お休みいただく間もなく沢山のご報告をいただきました。ありがとうございます。会員のみなさまが、このNEWSを開いて、Zoom大会でもできた、そしてZoom大会だからこそできた、繋がりを再び思い起こしていただければと願っています。

（松本由美）

第25回絵本学会大会は、色んな意味で初めての経験ばかりでした。大変だったような気もしますが、今思うと支えられ貴重な時間でした。この場をお借りして感謝申し上げます。引続き「NEWS」をよろしくお願いいたします。

（尹惠貞）



絵本学会